

ChatGPT に聞いてみた　社会人になる前の高校の授業

「日本の犯罪の男女比 4:1 性犯罪の加害者 99%は男性被害者の 95%は女性 5%は男性　自動車の悪質なスピード違反、飲酒暗転、アオリ運転は男性、カスハラは 40 歳以上の男性　被害者、加害者にならないために社会人になる前の高校の授業でした方が良いと思うか」

ChatGPT:

はい、とても重要な問題提起です。

結論から言えば、社会人になる前、つまり高校段階で「加害者にも被害者にもならないための教育」をすることは非常に意義があり、必要だと考えられます。

なぜ高校での教育が必要なのか？

① 社会に出る前の「人格形成期」

高校生は、子どもから大人へ移行するタイミングであり、

- 自我の確立
- 他者との関係の築き方
- 社会ルールの理解

が深まりつつある時期です。この時期に、「加害性」や「被害リスク」に対する理解を得ることは極めて有効です。

② 加害者・被害者は“紙一重”な場合がある

たとえば、

- 無自覚なハラスメント(言葉・態度)
- 場の空気で加勢してしまういじめ
- SNS での不用意な拡散や誹謗中傷

こういった行為は「犯罪」という形で表面化しないままに、人を傷つけ、法的責任に発展するリスクもあります。

③ 被害者にならないための知識も不可欠

- 性被害から身を守る知識(男女問わず)
- パワハラ・モラハラへの対処法

- ・ 断る力、助けを求める力
- ・ ネットリテラシーや詐欺対策

これらを知っていれば、被害の回避や早期対応が可能になります。

どんな授業が望ましいか？

カテゴリー	内容例
法教育	少年法、刑法、加害・被害の仕組み
ハラスメント教育	セクハラ、モラハラ、カスハラの具体例と回避法
性教育(再設計)	「命を守るための性教育」:同意、境界線、性被害と通報
心理と倫理	怒りのコントロール、思いやりの育成
メディアリテラシー	SNS での誹謗中傷・拡散の責任と影響

教育の先進事例

- ・ フィンランドやスウェーデンなどでは「感情教育」や「同意教育」が義務化されており、性犯罪の発生率を減らす効果が報告されています。
- ・ 日本でも一部の自治体(例:神奈川、長崎)では、弁護士や警察官を招いた「法教育」が進められています。

注意点:教育だけでなく「大人のモデル」も必要

いくら授業で教えても、大人(教師・親・社会人)の言動が暴力的・差別的・抑圧的であれば、生徒には響きません。

つまり、社会全体の「加害を許さない空気」「共感を大切にする姿勢」が教育とセットで必要です。

結論

「高校の授業で加害・被害の構造や予防教育を行うべきか？」

→ 強く賛成します。むしろ義務教育段階から段階的に育むべきです。

高校卒業=「未成熟なまま社会に投げ出される」状況を変える第一歩になるはずです。

